

脱炭素時代の資源の地政学 ーエネルギー転換の中の日本産業の選択ー

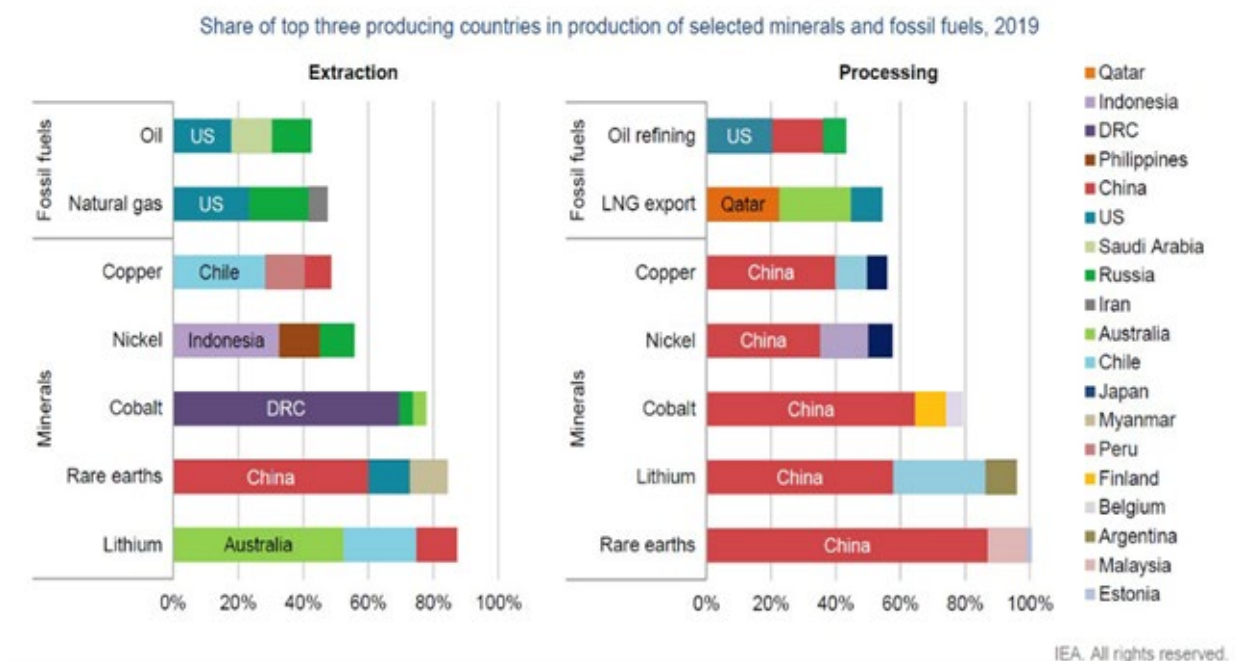
日本経済新聞社 金融・市場ユニット部次長 飛田雅則氏

中国による電池材料レアメタル寡占ー精製プロセスでも大きなシェア

「中国による資源獲得の動き」を注視する必要があります。「中国をリスクと捉えるかどうか」によって、見方が変わるところではありますが、中国が日本と違う政治システムを取っているという観点では、リスクの 1 つになるでしょう。

特に、中国がアフリカや南米で上流権益を獲得する、といったニュースがポツポツと出始めました。こうした動きは、一時は穏やかでしたが、また加速しており、上流権益だけならまだしも、鉱石から資源を取り出す精製などでも中国が高いシェアを持っている、と報告されている点は、要注意です。

2010 年の尖閣問題では、ほぼ独占していたレアアースを中国が外交カードとして利用して、日本に揺さぶりをかけました。日本の製造業は、レアアースを調達できないのではないかとかなり混乱しました。



上の IEA の資料をご覧ください。

化石燃料のシェアはアメリカとか中東に比較的集中していますが、銅やニッケルといった非鉄金属は、それぞれいろんな国が寡占状態にあります。ニッケルだとインドネシア、コバルトだとDRC、アフリカのコンゴ民主共和国、レアアースだと中国、といった具合です。

プロセッシング(精製)では、中国のシェアがレアアースでは80%を超えています。リチウムでも60%近い。コバルトはもう60%を超えている。ニッケルもそうです。ニッケル、コバルト、リチウムは、EVの電池に使われるので、これはもう中国の支配というか、影響力がかなり大きいといえますね。モーターなどの電子部品

に使われるレアアースも、かなり高い比率です。このあたりに“リスクが詰まっている”といえるのではないで
しょうか。